World Health Organization
Centre for Health Development

研究テーマ

介護分野における外国人技能実習のための ICF（国際生活機能分類）を基盤とした 評価ツールの開発

研究者名・所属

主導研究者：筒井孝子教授
兵庫県立大学大学院経営研究科

背景

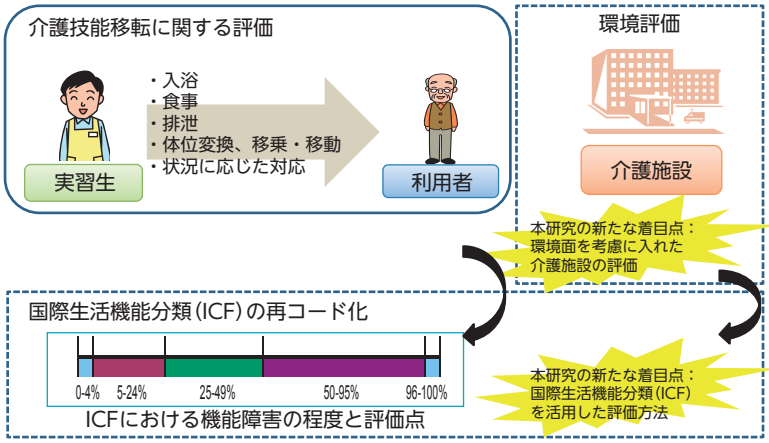
世界の多くの国々では人口高齢化が進行し、現場における介護の負担はますます深刻になっています。この状況は東アジアにおいて顕著で、介護人材の需要は2050年までに少なくとも倍増すると見込まれています。このような背景から、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を支える介護人材の研修制度が必要とされています。
日本では世界的な介護職の人材不足に対応するために「外国人技能実習制度」の対象職種に新たに介護職種が追加されることになりました。これは、介護分野での就労を希望する外国人を対象とした初めての実習プログラムです。
そして、このプログラムの目標実現のためには、技能・技術の移転の達成度を客観的に評価するツールが不可欠です。また、この評価ツールは国際的に適用可能であることが望まれます。

研究目的

本研究ではこの実習プログラムに焦点を当てて、外国人研修者の介護技能習得の達成度を評価するツールの開発を目的としています。また、海外での応用も見据えて、既存の評価ツールの国際生活機能分類（ICF）の活用の可能性も検証します。
本研究目的は次のとおりです。
1. 外国人技能実習制度のために構築された現行の評価ツールを基に、ICFの概念を用いて新たな評価ツールを開発する。
2. 新規に開発したツールについて、日本の介護技能実習現場での質問票調査や聞き取り調査を実施し、その有用性を実証する。

研究手法

次の3つの手法を用いて研究に取り組みます。
a) 外国人技能実習制度のために構築された現行の評価ツールを基に、ICFの概念を用いた新たな評価ツールを開発。
b) 研修施設に提出される自己評価質問票から得た追加データの集積、解析による新ツールの定量的な妥当性評価。
c) 綿密な聞き取り調査による新ツールの追加的な定性検査。



期待される研究成果

本プロジェクトを通じて日本のみならず他国においても、介護人材育成の研修制度の開発に貢献することが期待されます。また、これらの研修制度が多くの国でも応用されることで、世界的な介護人材の不足軽減に貢献することが期待されます。

研究チーム

リサーチ主導施設：兵庫県立大学
兵庫県立大学 大学院経営研究科　筒井 孝子 教授（主導研究員）
国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部　大夛賀 政昭 主任研究官
静岡県立大学 経営情報学部　東野 定律 准教授
広島大学 大学院社会科学研究科 マネジメント専攻　原口 恭彦 教授

スケジュール

2017年11月	ICFコードを用いた介護技能評価ツールの開発	2018年6月	第二次評価の実施
2017年12月	調査対象の選定	2018年7月	聞き取り調査の実施
2018年1月	ベースライン評価の実施	2018年8月～	調査分析と報告書作成

予算

US$ 85,000